

おいしさ、けんこう、
つぎつぎ、わくわく。))



2025年3月期 決算説明会資料 (2024年4月1日～2025年3月31日)

2025年5月8日

フジッコ株式会社

(証券コード2908)

<https://www.fujicco.co.jp/>

2025年3月期トピックス

主な製品分類別の取り組み結果

昆布

- 新学期、行楽、新米シーズンに全国主要都市でTVCM放映(4~6月、9~10月)



ヨーグルト

- 「まるごとSOYカスピ海ヨーグルト」がテレビの植物性ヨーグルト特集で露出
- 声優・花江夏樹さんを起用した「とろお~もっち食感」を訴求するTVCM放映(11月)



全体

- 惣菜、昆布、豆、ヨーグルト、デザート製品で価格改定実施(3月・9月)
※対象製品や実施日は品目別に異なります。

豆

- そのまま食卓に出せて便利な「豆小鉢」は、「おばんざい小鉢」と共にブランドを超えたTVCMを放映(5~6月)



- 店頭試食販売の実施

- 12月商戦でプレミアム豆小鉢シリーズを発売



- 令和六年「黒豆奉納式」を上野東照宮・金色殿で開催(12月12日)
- 不足しがちなたんぱく質を朝食で補給できる商品として「朝のたんぱく おまめさん」シリーズを新発売(3月1日)



2025年3月期 経営方針の振り返り

① 豆事業全体の浮上

新商品を“つぎつぎ”上市。既存商品のリニューアルも積極的に実施。製品分類別では前年から最も伸ばし売上高に貢献。

② 昆布事業のさらなる強化

当期2回の価格改定を実施しながらも収益基盤の柱として安定的な売上を維持。しかしながら、広告費や販売奨励金の負担も増加した。

③ 「成長の芽」の事業推進

通信販売事業、素材事業ともに紅麹問題で影響を受け、販売の低調が続いた。海外事業は、ヨーグルトの海外展開へ向けた準備が整った。

④ DXの推進(3年目)

経営層を含む社員のDXリテラシー向上のため、リスキリングプログラム導入。これにより経営意思決定のスピード化を図る。

⑤ 稼ぐチカラの復元

二度の製品値上げを実施するも、値引きや販売奨励金の増加、材料費、労務費、物流費等が継続して上昇し利益を圧迫。

⑥ 働きがい改革

働きがいを「働きやすさ×やりがい」と定義。各種制度をアップデートし働きやすい環境を整備。業績向上との関係性が強いやりがいのスコア向上は次年度の取り組み課題とする。

2025年3月期決算の概要

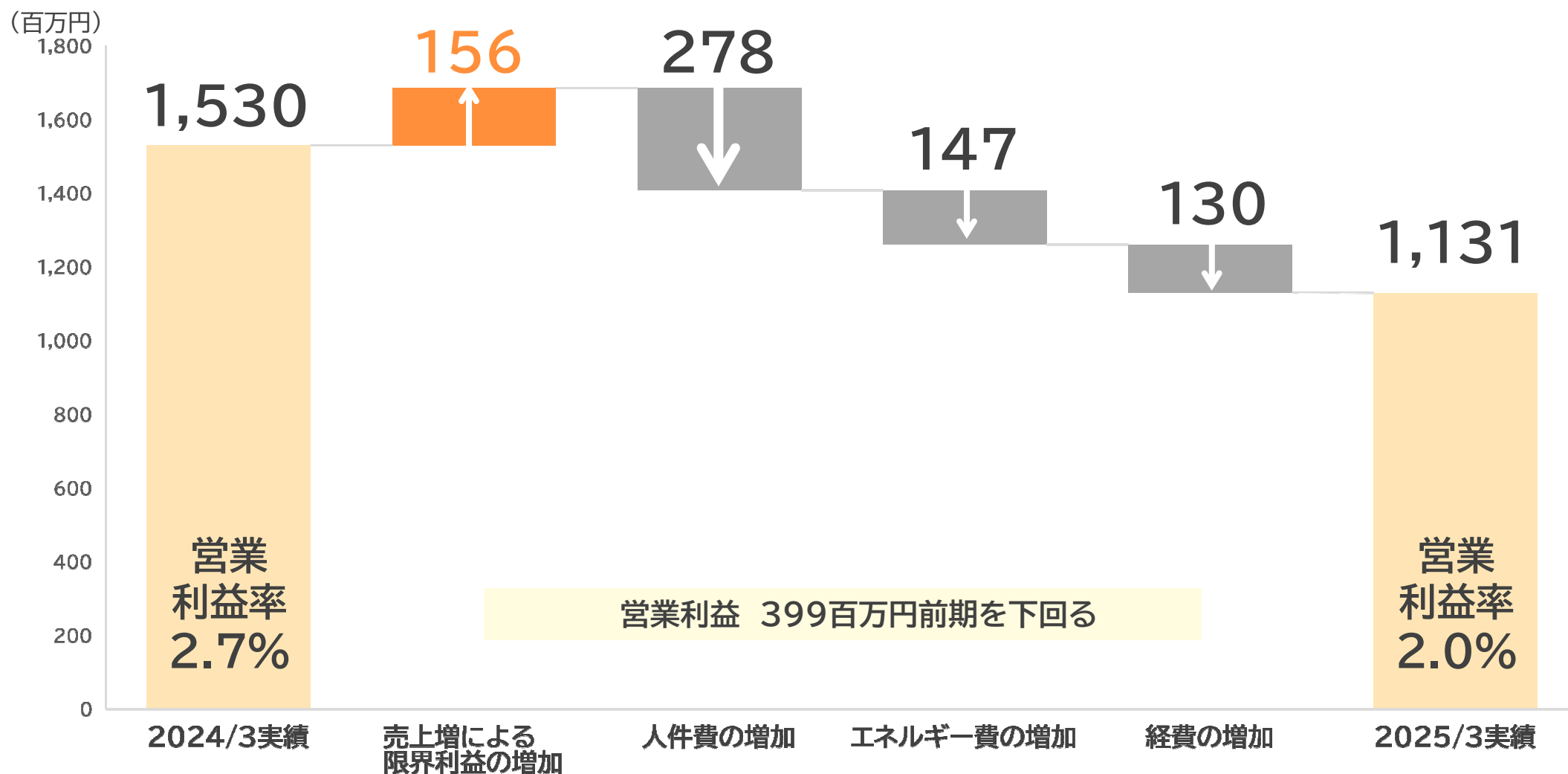
連結損益計算書(前年との比較)

	2024/3期		2025/3期		増減額	増減率
	百万円	%	百万円	%		
売上高	55,715	100.0	57,077	100.0	1,361	2.4%
売上原価	39,271	70.5	40,591	71.1	1,319	
売上総利益	16,444	29.5	16,486	28.9	42	
販管費	14,913	26.8	15,355	26.9	441	
営業利益	1,530	2.7	1,131	2.0	△399	△26.1%
営業外損益	350	0.6	423	0.7	72	
経常利益	1,881	3.4	1,554	2.7	△326	△17.4%
特別損益	△284	△0.5	△295	△0.5	△10	
税引前利益	1,596	2.9	1,258	2.2	△337	
当期純利益	1,110	2.0	951	1.7	△158	△14.3%
1株当り純利益	39円00銭		33円44銭		△5円56銭	

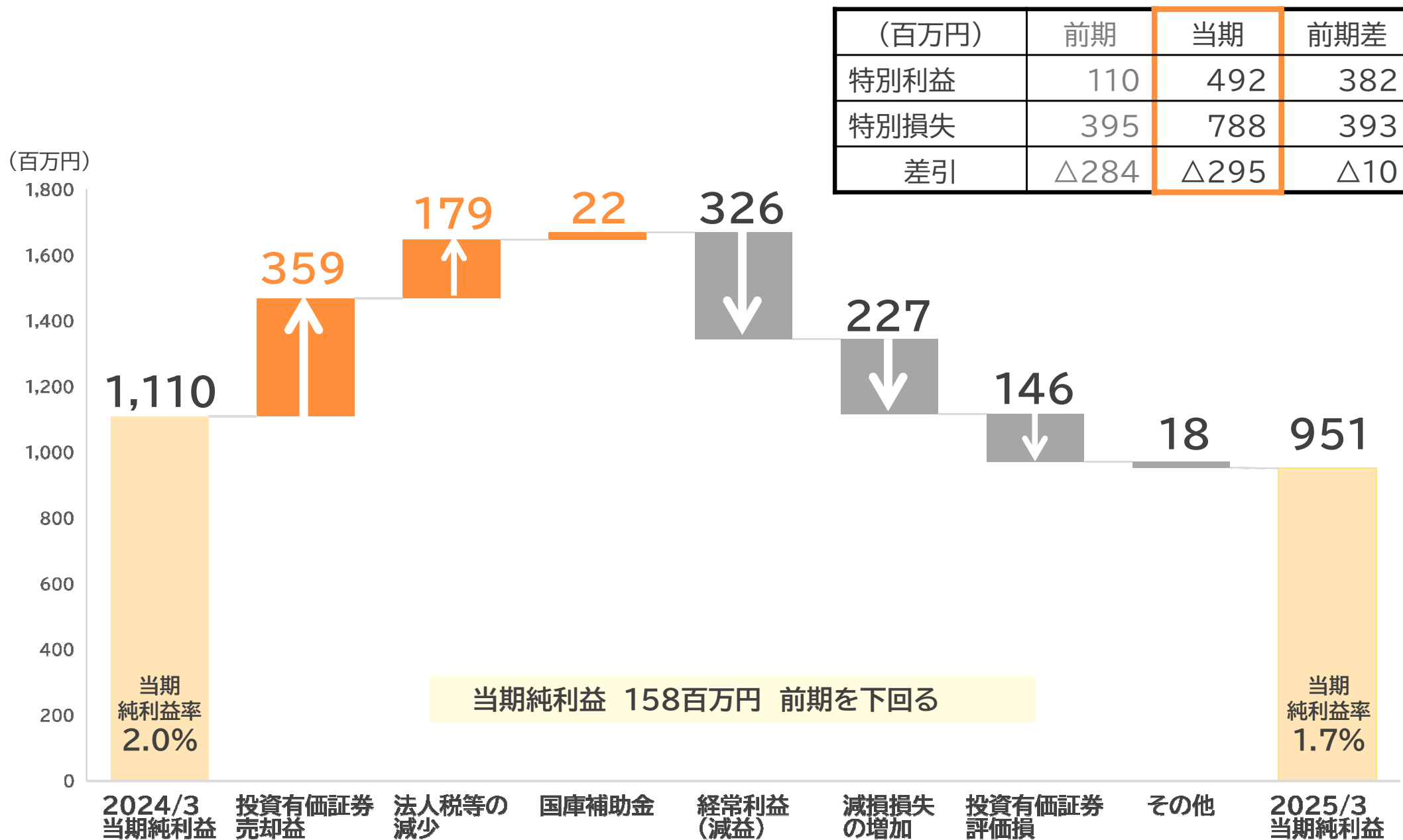
※ 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益になります。

営業利益の増減要因分析(前年との比較)

売上高が増加したことにより限界利益は増加したが、一方では人件費やエネルギー費が増加し、その負担が大きかった。



当期純利益の増減要因分析 ～ 特別損益の比較 ～



連結製品分類別売上高(前年との比較)

(百万円)	前期 実績	構成比 %	当期 実績	構成比 %	前期差	前期比 %
惣 菜 製 品	19,060	34.2	19,064	33.4	3	100.0
昆 布 製 品	15,712	28.2	15,917	27.9	204	101.3
豆 製 品	9,949	17.9	10,483	18.4	534	105.4
ヨーグルト製品	6,471	11.6	6,759	11.8	287	104.5
デザート製品	2,654	4.8	2,715	4.8	60	102.3
そ の 他 製 品	1,867	3.3	2,138	3.7	270	114.5
合 計	55,715	100.0	57,077	100.0	1,361	102.4

【品群別コメント】

惣菜製品では、「おばんざい小鉢」と日配惣菜が伸長した一方で、百貨店中華総菜が大幅に減少して前年並みとなった。

昆布製品では、生昆布を使用した「ふじっ子煮MIRAI」や、業務用塩こんぶの伸長が貢献して前年実績を上回った。

豆製品では、新商品「豆小鉢プレミアムシリーズ」の発売と蒸し豆の販売強化が功を奏してV字回復となった。

ヨーグルト製品では、「カスピ海ヨーグルト」と「まるごとSOYカスピ海ヨーグルト」が牽引して市販製品は二桁伸長となったが、通販商品が減少したため前年比104%となった。

デザート製品では、キャンベルグレープの復活発売やPR活動により微増となった。

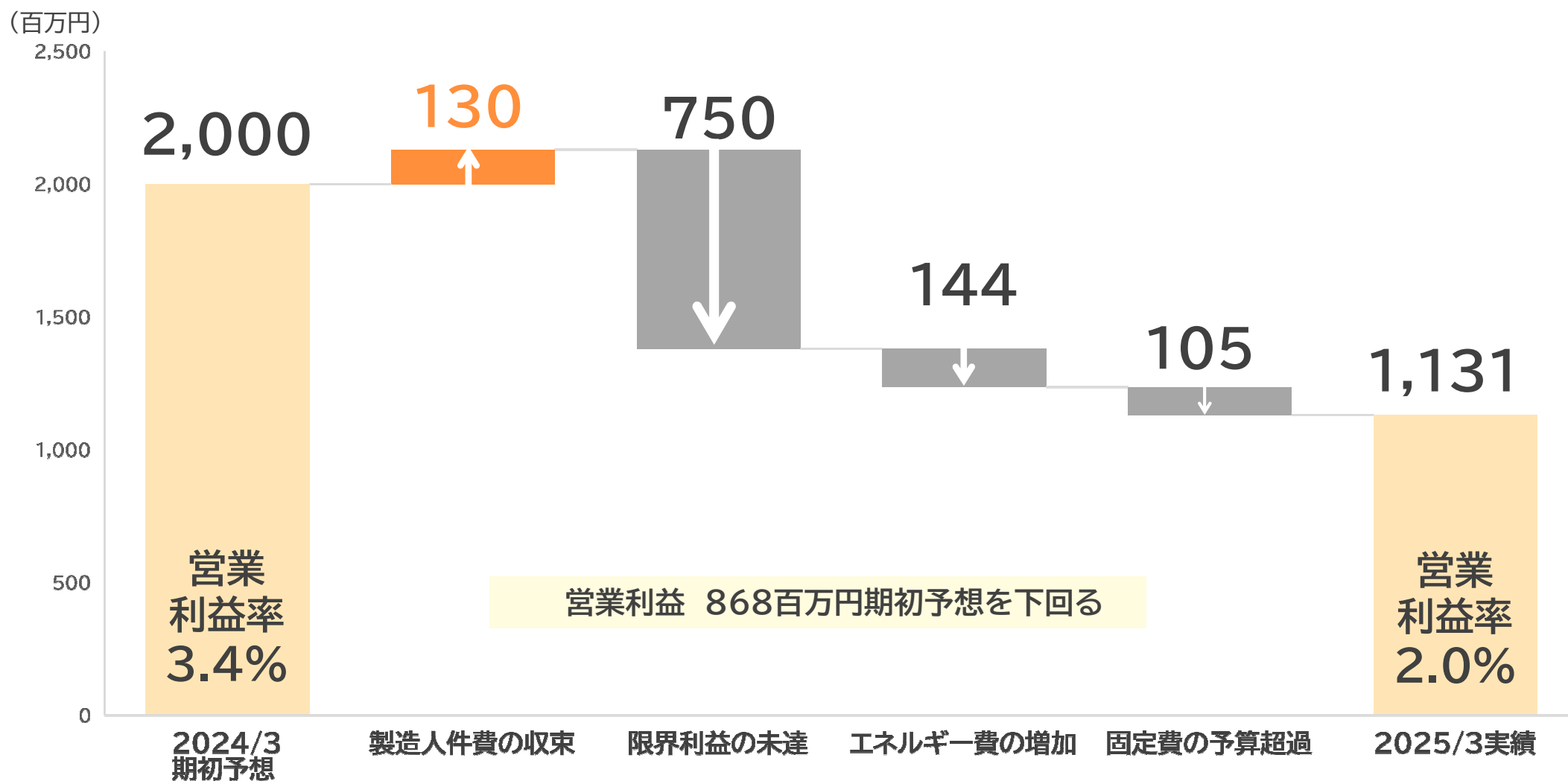
連結損益計算書(期初予想との比較)

	期初予想		当期実績		差	増減率
	百万円	%	百万円	%		
売上高	58,500	100.0	57,077	100.0	△1,422	△2.4%
売上原価	41,000	70.1	40,591	71.1	△408	
売上総利益	17,500	29.9	16,486	28.9	△1,013	
販管費	15,500	26.5	15,355	26.9	△144	
営業利益	2,000	3.4	1,131	2.0	△868	△43.4%
営業外損益	250	0.4	423	0.7	173	
経常利益	2,250	3.8	1,554	2.7	△695	△30.9%
特別損益	0	0.0	△295	△0.5	△295	
税引前利益	2,250	3.8	1,258	2.2	△991	
当期純利益	1,550	2.6	951	1.7	△598	△38.6%
1株当り純利益	54円45銭		33円44銭		△21円01銭	

※ 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益になります。

営業利益の増減要因分析(期初予想との比較)

収益認識控除比率が影響し、限界利益が期初予想に届かず。また、コストダウン活動が進まず、固定費も期初予算超過となった。



連結製品分類別売上高(期初予想との比較)

(百万円)	期初予想	構成比 %	当期実績	構成比 %	予想差	予想比 %
惣 菜 製 品	20,391	34.9	19,064	33.4	△1,328	93.5
昆 布 製 品	15,960	27.3	15,917	27.9	△44	99.7
豆 製 品	10,434	17.8	10,483	18.4	49	100.5
ヨーグルト製品	6,931	11.8	6,759	11.8	△173	97.5
デザート製品	2,816	4.8	2,715	4.8	△102	96.4
そ の 他 製 品	1,964	3.4	2,138	3.7	174	108.8
合 計	58,500	100.0	57,077	100.0	△1,423	97.6

【品群別コメント】

惣菜製品では、107%と高い計画設定率としたが値上げによる影響もあり包装惣菜、日配惣菜、百貨店中華総菜ともに計画を大きく下回った。

昆布製品では、塩こんぶ等やとろろ昆布は計画を超えたが、昆布佃煮が値上げによる数量ダウンの影響もあり、昆布製品計ではわずかに計画を下回った。

豆製品では、105%の高い目標設定に対して新商品「豆小鉢プレミアムシリーズ」の発売と蒸し豆の販売強化が功を奏して計画を達成した。

ヨーグルト製品では、107%の高い計画設定に対して「まるごとSOYカスピ海ヨーグルト」が牽引して市販製品は計画を大きく超えたが、通販商品の減少により計画から下回った。

デザート製品では106%の高い計画設定に対して、キャンベルグレープの復活発売やPR活動等で押し上げたが計画から下回った。

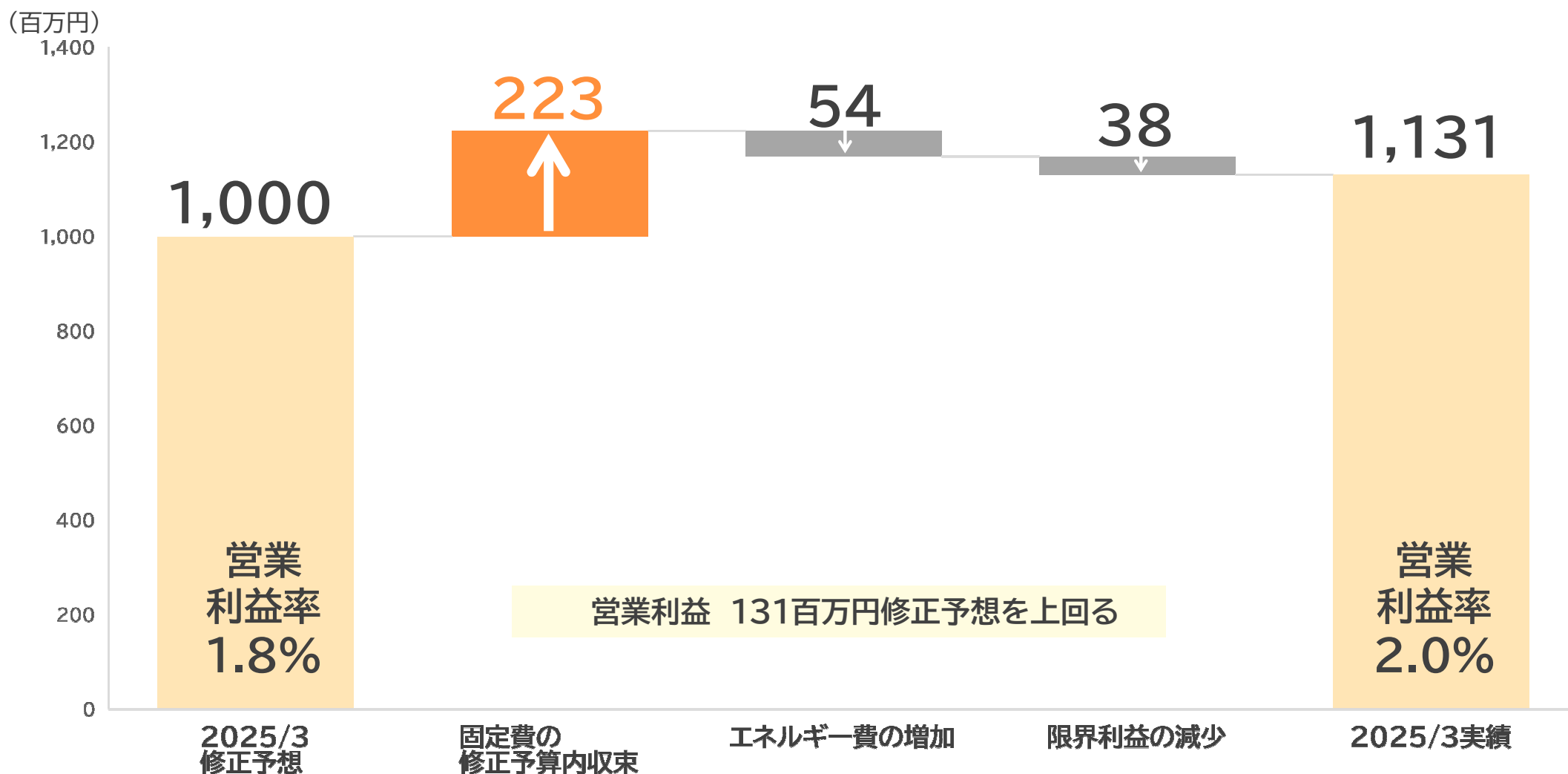
連結損益計算書(1/24修正予想との比較)

	修正予想		当期実績		差	増減率
	百万円	%	百万円	%		
売上高	56,800	100.0	57,077	100.0	277	0.5%
売上原価	40,300	71.0	40,591	71.1	291	
売上総利益	16,500	29.0	16,486	28.9	△13	
販管費	15,500	27.3	15,355	26.9	△144	
営業利益	1,000	1.8	1,131	2.0	131	13.1%
営業外損益	400	0.7	423	0.7	23	
経常利益	1,400	2.5	1,554	2.7	154	11.0%
特別損益	0	0.0	△295	△0.5	△295	
税引前利益	1,400	2.5	1,258	2.2	△141	
当期純利益	1,000	1.8	951	1.7	△48	△4.8%
1株当り純利益	35円13銭		33円44銭		△1円69銭	

※ 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益になります。

営業利益の増減要因分析(1/24修正予想との比較)

トップラインが修正予想を上回ったことと、コスト削減の取り組みにより固定費が修正予算内に収束した。その結果、営業利益も修正予想を上回った。



連結製品分類別売上高(1/24修正予想との比較)

(百万円)	修正予想	構成比 %	当期実績	構成比 %	予想差	予想比 %
惣 菜 製 品	19,316	34.0	19,064	33.4	△252	98.7
昆 布 製 品	15,673	27.6	15,917	27.9	244	101.6
豆 製 品	10,473	18.4	10,483	18.4	10	100.1
ヨーグルト製品	6,715	11.8	6,759	11.8	44	100.7
デザート製品	2,751	4.8	2,715	4.8	△36	98.7
そ の 他 製 品	1,869	3.3	2,138	3.7	269	114.4
合 計	56,800	100.0	57,077	100.0	277	<u>100.5</u>

【品群別コメント】

惣菜製品では、計画を101%に下方修正するとともに後半は野菜高の影響もあり販売が回復したが累計では修正計画を少し下回った。

昆布製品では、計画を100%に下方修正するとともに後半は値上後の数量が少し回復傾向となったため修正計画は上回った。

豆製品では、販売好調につき期初計画から少し上方修正し、修正計画についても計画をクリアした。

ヨーグルト製品では、通販商品の状況に沿って104%に下方修正した結果、「まるごとSOYカスピ海ヨーグルト」等の市販製品の伸長で修正計画を上回った。

デザート製品では、104%に計画を下方修正したが値上げ後の数量回復が遅れて修正計画を下回った。

四半期会計期間の売上・営業利益の増減推移(前期比)

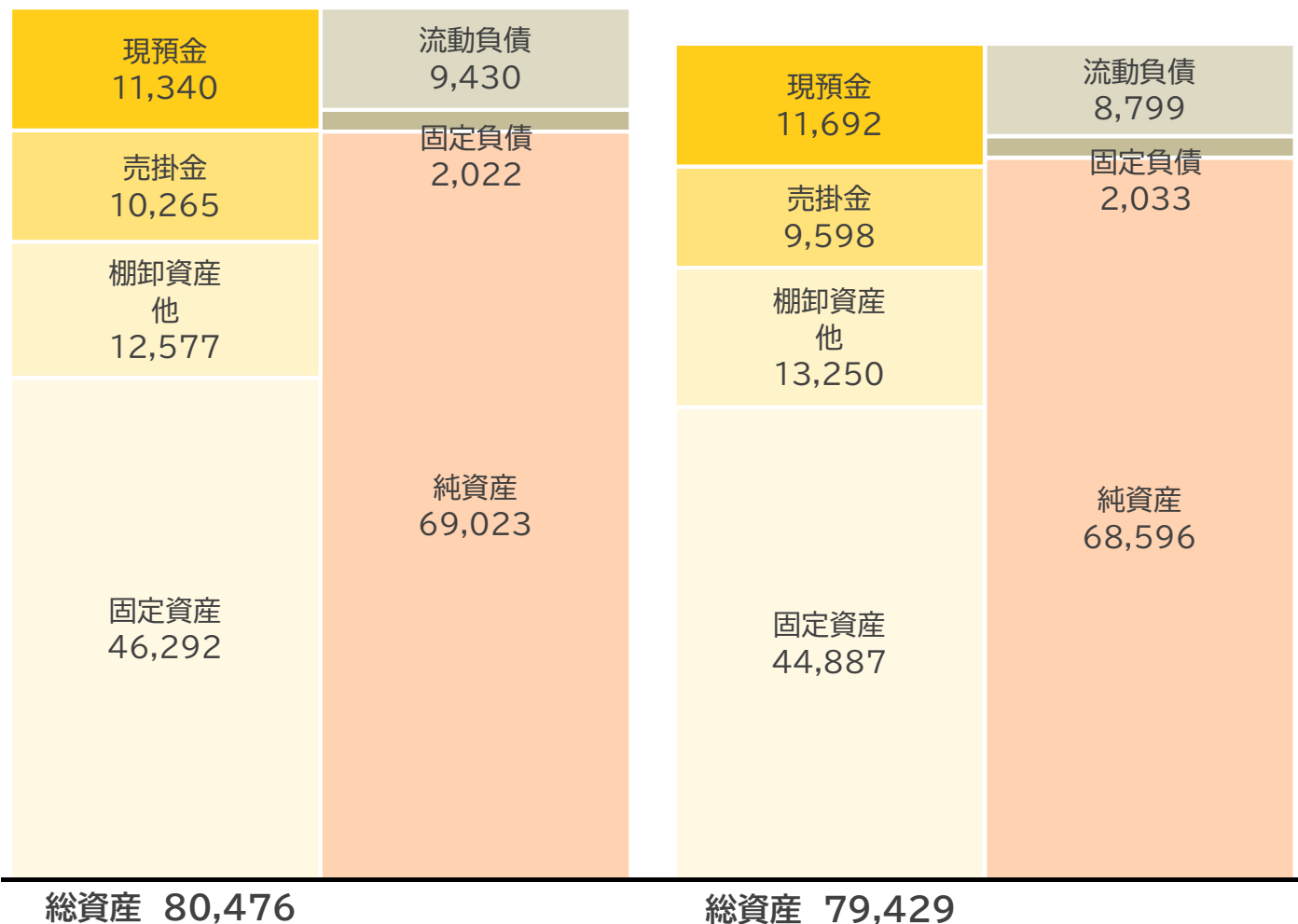
(単位:百万円)		売上高	営業利益	営業利益率
第1Q (4－6月)	前第1Q	13,634	170	1.2%
	実績	13,931	6	0.0%
	増減	296	△163	－
	前同四半期比	102.2%	4.1%	－
第2Q (7－9月)	前第2Q	13,831	490	3.5%
	実績	14,124	251	1.8%
	増減	292	△239	－
	前同四半期比	102.1%	51.1%	－
第3Q (10－12月)	前期第3Q	15,314	1,000	6.5%
	実績	15,790	659	4.2%
	増減	475	△341	－
	前同四半期比	103.1%	65.9%	－
第4Q (1－3月)	前期第4Q	12,935	△131	△1.0%
	実績	13,231	213	1.6%
	増減	296	344	－
	前同四半期比	102.3%	－	－

連結貸借対照表(前期末との比較)

2024/3末

2025/3末

単位:百万円



【増減】

■現預金は352百万円の増加となり、主な増減は以下のとおり

税引前利益	1,258百万円
減価償却費	3,477百万円
売上債権	666百万円
法人税等	△571百万円
固定資産の取得	△3,119百万円
配当金	△1,313百万円

■固定資産の減少は、主に投資有価証券の売却等と減価償却による有形固定資産の減少

有形固定資産の減少	△1,130百万円
投資有価証券の売却等	△466百万円

■自己資本比率

(2024/3末)	(2025/3末)
85.8%	⇒ 86.4%

2026年3月期業績の見通し

連結業績予想

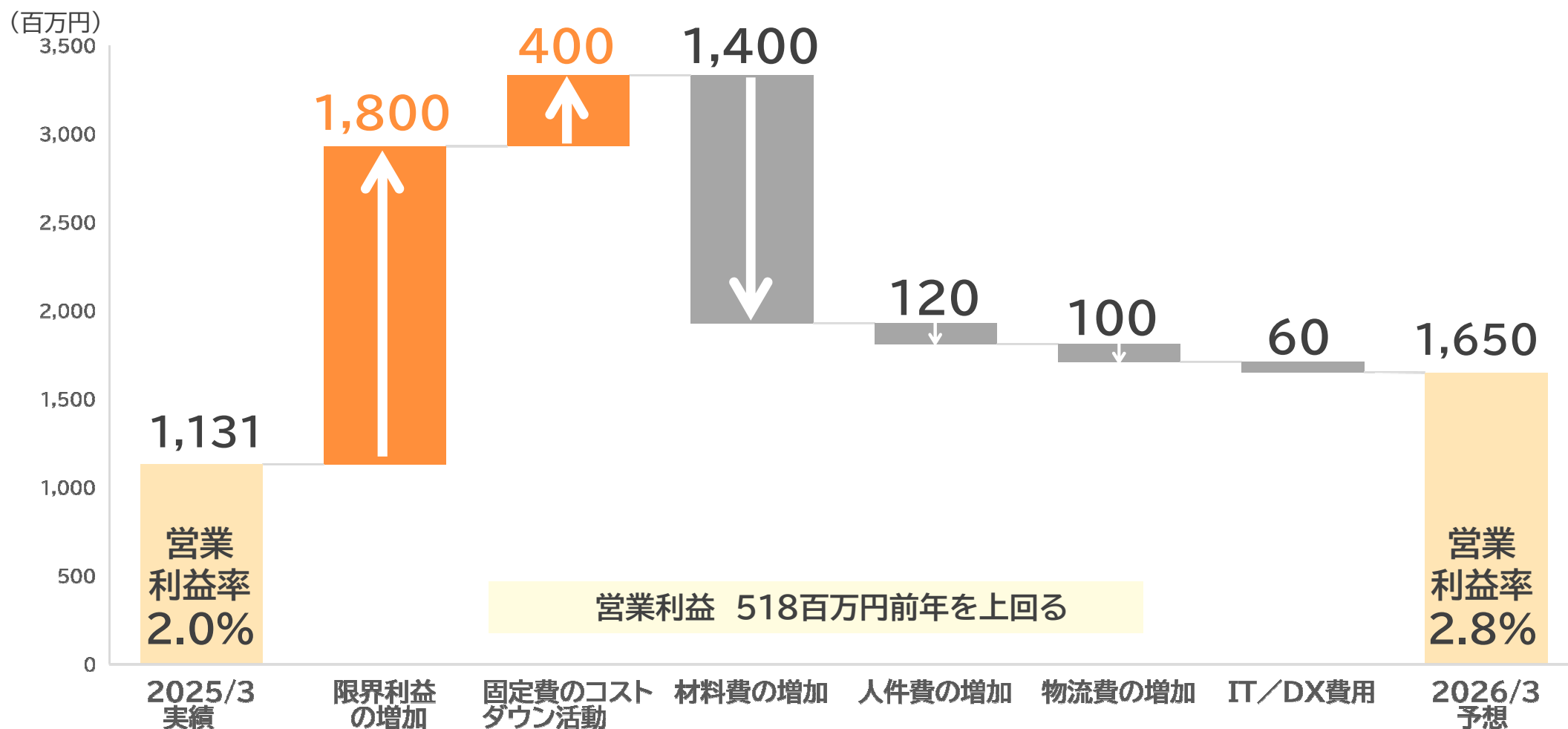
	2025/3期		2026/3期予想		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	57,077	100.0	58,500	100.0	1,422
売上原価	40,591	71.1	41,000	70.1	408
売上総利益	16,486	28.9	17,500	29.9	1,013
販売費及び一般管理費	15,355	26.9	15,850	27.1	494
営業利益	1,131	2.0	1,650	2.8	518
営業外損益	423	0.7	250	0.4	△173
経常利益	1,554	2.7	1,900	3.2	345
特別損益	△295	△0.5	0	-	295
税引前利益	1,258	2.2	1,900	3.2	641
当期純利益	951	1.7	1,350	2.3	398
1株当り当期純利益	33円44銭		47円42銭		13円98銭

1株当り配当金	46円(中間23円)	46円(中間23円)	±0
---------	------------	------------	----

※ 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。

営業利益の増減要因分析(前年との比較)

円安影響及び諸資材の値上がりを製品値上げで吸収し、また、積極的にコスト削減活動に取り組むことにより限界利益は18億円の増加を見込む。
給与水準の段階的な引上げや、DX推進等への戦略的経費を組み込み、通期業績は増収増益を目指す。



連結製品分類別売上高

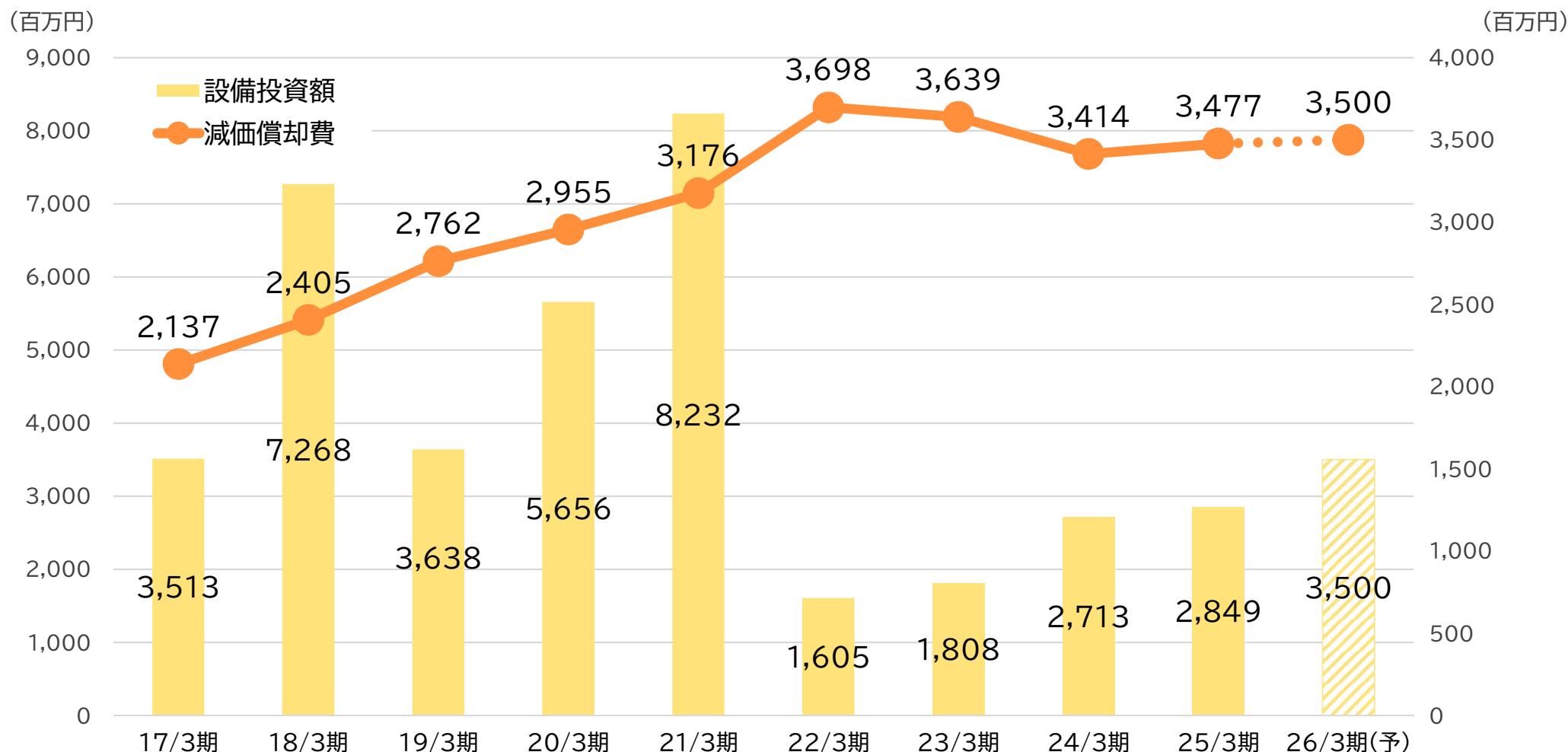
(単位:百万円)	2025/3 実績	構成比 %	2026/3 予想	構成比 %	前期差	前期比 %
惣 菜 製 品	19,064	33.4	19,232	32.9	168	100.9
昆 布 製 品	15,917	27.9	16,165	27.6	248	101.6
豆 製 品	10,483	18.4	11,198	19.1	715	106.8
ヨーグルト製品	6,759	11.8	7,272	12.4	513	107.6
デザート製品	2,715	4.8	2,589	4.4	△126	95.4
そ の 他 製 品	2,138	3.7	2,044	3.5	△94	95.6
合 計	57,077	100.0	58,500	100.0	1,423	<u>102.5</u>

予想の根拠

- 惣菜製品 : 包装惣菜は手作りのおいしさ再現を追求した製品開発に取り組む。
- 昆布製品 : 佃煮「ふじっ子煮」の継続的なプロモーションで物量を引き上げる。
差別優位性のある製品開発にも取り組む。
- 豆製品 : 既存製品の品質向上と、細分化された顧客ニーズに対応する製品開発。
- ヨーグルト製品 : 「カスピ海ヨーグルト」の若年顧客アプローチ。新たな製品開発。
- デザート製品 : 収益性を考慮しつつ、「フルーツセラピー」を価値販売。

連結設備投資額と減価償却費の推移

2025年3月期は「おばんざい小鉢」の生産ライン増設を行った。
2026年3月期は、ヨーグルト生産ラインの新設をはじめ、35億円を見込む。
減価償却費は前期並みの35億円を見込み、設備投資は減価償却費と同等水準とする。



この資料には、当社の現在の業績見通しなどが含まれております。それら将来の予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの予想などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

～ お問い合わせ先 ～

経営企画本部長 小段 健男

経営企画部課長 小松 亜矢美

TEL 078-303-5921